

複製ストレス制御機構が引き起こす生命現象の総合的理



～ More SLFN11, More Drug Sensitivity ～

ふりがな

むらい じゅんこ

氏名：村井 純子

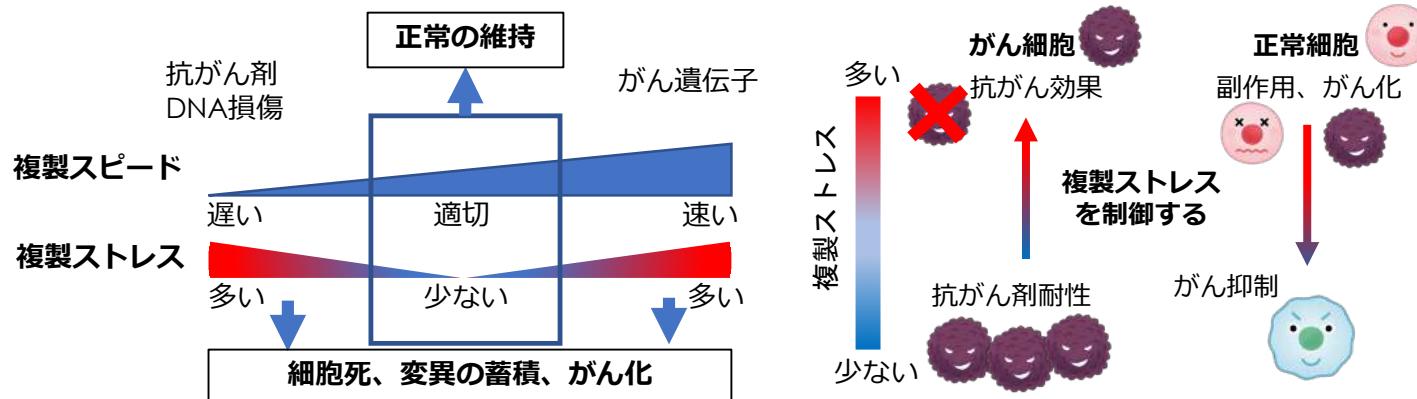
所属・部門：慶應義塾大学先端生命科学研究所（非常勤）

職位：特任准教授

専門分野：分子生物学

＜研究概要＞

1つのヒト細胞には60億塩基対のDNAが含まれ、これらを正確かつタイムリーに複製することは、正常な発生のみならず、がん化を抑制するために重要です。しかしDNA複製は様々な要因により障害（複製ストレス）を受け、細胞死やDNA変異の原因となります。本研究では複製ストレス制御因子に注目し、複製ストレスが関与する発生、がん、抗がん剤の効果や副作用などの生命現象を明らかにします。特に、複製ストレス制御因子SLFN11はがん細胞における発現が高いと、シスプラチニなどのDNA障害型抗がん剤の効果が高まることがわかっており、そのメカニズムと発現制御機構の解明はがん治療に大きく貢献できると考えます。



＜略歴＞

2000年大阪大学医学部医学科卒業、2000–2003年大阪大学医学部付属病院ほかで整形外科医として勤務、2008年大阪大学大学院医学研究科卒業医学博士。2009年ダナファーバーがん研究所、2010–2012年アメリカ国立衛生院ポストドク。2012–2015年京都大学医学部で特任助教（メディカルイノベーションセンター）、助教（放射線遺伝学教室）。2015–2018年アメリカ国立衛生研究所でポストドク。2018.10–現職、2022.3–愛媛大学プロテオサイエンスセンター准教授（兼任）。